

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぐんぐん九条		
○保護者評価実施期間	7年 2月 5日		7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	7年 2月 5日		7年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 4月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人ひとりのニーズや特性を踏まえるとともに、「やってみたいこと」や「興味・関心」「希望・要望」を丁寧に聞き取りながら、それらを反映した活動内容を日々の支援に取り入れています。単に提案するのではなく、実際に形にして実行することを重視し、児童が主体的に参加できる環境づくりに努めています。	児童が「諦めずに挑戦する気持ち」を育めるよう、日々の活動では成功体験だけでなく、失敗を恐れずにチャレンジできる環境づくりを大切にしています。声かけや関わり方にも工夫を凝らし、少しでも「活躍できた」と感じられる場面を意識的に用意しています。こうした日々の積み重ねを通じて、一人ひとりの自信や自尊心を育てることを目指して取り組んでいます。	学校や家庭などでうまくいかない経験を重ね、自分に対して自信を持ちづらくなっている児童も多く見られます。そうした背景を踏まえ、「活躍できた」と感じられる場面や役割を意識的に設けることで、児童が本来持つ力を発揮できるように支援していきます。 今後は、事業所内にとどまらず、外部の場でもいきいきと行動できるような経験を増やすために、より充実した活動内容の提供に努めていきます。
2	個別学習・SST・集団活動をバランスよく取り入れ、児童一人ひとりの発達段階や特性に応じた支援を行っています。特に、「健康・運動」「認知・言語」「社会性・人間関係」「生活・環境」「感情・意欲」の発達の5領域を意識しながら、日々の活動を構成しており、児童の力を総合的に育むことを目的に取り組んでいます。	児童の体調やその日の様子に応じて柔軟に時間を調整しながら、20分以上を目安に個別学習や小集団での学習活動を実施しています。 保護者や本人の希望・ニーズ、個別支援計画を踏まえ、専門職が立てたプランに沿って、学校生活でも活用できるSSTや集団活動、個別学習などを組み合わせた支援を行っています。	小集団という特性を活かし、カードゲームなどの遊びを通じて、感情のコントロールや状況に応じた言動の調整といった、自己調整力を育てる機会を設けています。 また、児童どうしの関わりの中で、自然にコミュニケーション力を育む場として小集団または集団活動を活用していく予定です。 さらに、活動の中では自分たちでルールを設定したり、TPOに応じた振舞、ルールや約束を守ることを意識する体験も重ねることで、主体性と社会性の両面の成長を支援していきます。
3	個別支援計画・専門支援計画を適切に作成するために、関係機関との連携を密に行っている。	毎月1回以上、学校の担任や学童指導員、相談支援専門員など、児童に関わる関係機関と連絡を取ったり、訪問を行うなどして継続的に連携を図っています。 そうした関わりの中で、小さな成長や課題を見つけたり、悩みや達成感を共有する機会を持つことで、より実態に即した支援計画の更新に繋げることができており、適切な支援の実行に役立っています。	学校等で設定されているカリキュラムと、児童の学力や理解度に差が見られる場合もあり、支援の内容や進め方について丁寧な調整が求められることがあります。 そのため、関係機関との密な情報共有を行いながら、児童にとってより適した支援とは何かを把握・模索し、事業所としても今後の支援に活かしていきたいと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在、第三者による外部評価を実施しておらず、客観的な視点から事業所の支援や運営状況を見直す機会が不足している点は課題と考えられます。	日々の支援や運営業務が優先される中で、外部評価の導入に向けた体制づくりや準備が十分に進んでいない状況です。また、評価の具体的な導入方法や活用の仕方について、改めて整理する必要があると感じています。	第三者評価の目的や必要性について職員間で認識を共有し、事業所に合った実施のあり方を検討していく予定です。外部の視点を取り入れることで、支援の質の向上や組織運営の振り返りに活かしていけるよう、段階的な導入についても引き続き検討していく考えです。
2	ペアレントトレーニングなどの家族支援プログラムや、保護者が参加できる研修ペアレントトレーニングなどの家族支援プログラムや、保護者が参加できる研修の機会については、現在、事業所としての実施体制が整っておらず、継続的な提供ができていない状況です。	保護者の就労状況や家庭の事情なども踏まえ、参加が難しいケースが多く、事業所としても企画・実施に至るまでの体制が十分に構築できていません。そのため、現在は必要に応じた個別の支援・助言という形で対応しています。	ペアレントトレーニングに関する研修等には、今まで以上に職員が積極的に参加し、そこで得た知識や技能、支援に活かせる情報を職員間で共有していくことが必要と考えています。 今後は、事業所としてもこの取り組みをどのように支援に取り入れていくかを検討していくことで、家族支援がより豊かになるよう努めていきます。
3	父母の会など、保護者同士が直接顔を合わせて交流できる機会が現在は設けられておらず、家庭間のつながりを持つ場が不足している状況です。	保護者間の交流を希望されるご家庭も一部ありますが、個人情報保護の観点や家庭の事情により、交流に対して消極的なご家庭も多く、全体として開催には至っていないのが現状です。	少数でも希望されるご家庭がある限り、その声を大切にしながら、無理のない範囲での交流のあり方について検討していくことが必要です。アンケートの実施や個別の意向確認なども活用し、保護者同士のつながりを促進できるような工夫を検討していきます。